

## 新しいトラモアタグを用いたクルマエビの標識放流

魚介類の移動や分布を調べる方法として、標識放流調査があります。標識放流で最もポピュラーなものはダートタグやリボンタグと呼ばれる外部標識を用いる調査で、多くの魚類ではこれらから標識個体の再捕報告から、移動や分布などの生態情報が得られています。一方、エビ類やカニ類などの甲殻類では、これらの外部標識が脱皮の際に脱落することがあり、あまり利用されていませんでした。しかしながら、この難題を解決したクルマエビを対象とする新しい標識が、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所で開発されました。

そして、2020年10～11月に、この開発されたトラモアタグを全長15～20cmの天然クルマエビ計130尾に装着して、高松市庵治地先と観音寺市有明浜地先に放流しました。

香川県では、クルマエビの漁獲量向上のため、人工種苗の放流や小型個体の再放流を行っています。しかし、香川県の漁獲量は1999年の97トンピークに減少し、2010年以降は18～30トンと低迷しています。この新しい標識を用いた調査結果から、本種の漁獲量向上のための糸口が見つかるのではないかと期待しています。

### 【参考文献】

佐藤 琢 (2020) エビが脱皮しても脱落しない新しい装着型外部標識, 豊かな海, 51, 7-15.

Sato, T., T. Sugaya, H. Yoshikawa (2020) Novel method of tagging the kuruma prawn *Penaeus japonicus* with a trans-molting retentive external eye (TRAMORE) tag. *Fisheries Research*, 225, 105482.

(文責 主席研究員 山本昌幸)



トラモアタグの装着作業



カゴを用いた標識クルマエビの放流



タグが眼柄に装着されたエビ



砂地へのクルマエビ放流

クルマエビの移動や成長等を調べるため  
《眼に番号のついた標識を付けたエビ》  
を令和2年10－11月に放流しました。

高松市庵治地先：100尾

観音寺市有明浜地先：30尾

番号付きの標識



標識エビがとれましたら下記までご連絡ください！  
漁獲場所を伺ったうえで、買取りまたは粗品進呈  
させていただきます。

連絡先：香川県水産試験場（担当：山本・西岡）  
TEL087-843-6511/ FAX087-841-8133